

つ・な・が・る・通信



V o l . 3

平成 31 年 3 月 1 日

発行/編集 高島町在宅医療・介護連携センター

この通信は、高島町在宅医療・介護連携推進協議会（以下「協議会」）における在宅医療と介護の連携状況を随時お伝えするものです。

多職種合同研修会において、金子誠先生から 「パーキンソン病の基礎知識」を学びました！

12 月 13 日（木）午後 7 時から、げんき館において多職種合同研修会「パーキンソン病の基礎知識」と題して、金子誠先生の講演会を開催しました。



金子 誠 先生

この研修会は、介護職専門員からの強い要望で医療系専門研修として開催しました。

講演内容 パーキンソン病は神経性の難病の中でももっとも患者が多く、研究も進んでいる疾患で、研究の歴史も古く 1817 年にイギリスのジェームス・パーキンソンが最初に報告したことから、パーキンソン病と名付けられたという歴史的なことから講演が始まり、病気の定義や発症原因、症状、治療の順序で、わかりやすくご講演いただきました。

パーキンソン病は、今回で 2 回目のご講演となりましたが、発見方法や症状なども更に詳しく画像を交えて説明いただき、介護の現場や日常生活の動作などから、早期発見に役立つポイントをわかり易くご教授いただきました。

参加者からは、身近に相談できる専門医の存在に安心して業務に取り組めると感謝の声が多数ありました。

金子先生、お忙しい中、ありがとうございました。



金子先生の講演を熱心に受講しました

在宅医療・介護連携普及啓発事業 町民参加型講座「人生の終い方パートII」開催

町民対象啓発講座として、昨年度に引き続き、NPO 法人地域健康プランに業務委託して今年度は、和田と屋代地区で実施しました。



講師の山形大学医学部の先生方

参加者は、和田地区 40 名（内男性 4 名）屋代地区 32 名（内男性 3 名）でありました。

「人生の最期の時をどう生きるか」のキーワードから、腫瘍内科医師が「がん患者と向き合っていて感じていることを参加者と一緒に考えていく講座を実施しました。

講座に先立ち、ご講演をいただきました。

①演題「自分らしい生活・人生の幸福とは何か」

山形大学医学部腫瘍内科医師 中村 翔先生

②演題「最期を迎えるための準備」

山形大学医学部腫瘍内科医師 渡邊 要先生

③演題「最後までより良く生きるための選択とは」

山形大学医学部医療ソーシャルワーカー

五十嵐 絵美先生

講座では、人生の時間が限られていると伝えられた時、「やっておきたいこと」「後悔することは何か」「最期の場所としてどんな場所を選ぶかを参加者と考え、その意思を家族へ伝える大切さをACP（人生会議）の視点も踏まえてお伝えしました。

なかなか考える機会がない「人生の終い方」。少しでも参加者が考えるきっかけに、そして「もしもの時」に備える準備を考えていただく機会になったものと思います。

参加者からも、「終活」の言葉は聞いていたが、「これからの人生どう生きるか」を改めて考えさせられました。そして、自分らしく生きるための目標をもつことの大切さを痛感し、大変有意義な研修だったとの声が多数寄せられた講演会でありました。

（注）ACP（アドバンス・ケア・プランニング）は、人生の最終段階における医療・ケアを話し合う仕組み



12月7日（金）和田地区会場



1月25日（金）屋代地区会場

待望の「医師部会」を開催！

2月14日（木）午後7時から、げんき館において「医師部会」を開催しました。参加された先生方は、粕川先生、金子先生、松橋先生、門脇先生、高畠病院からは、泉谷院長、加藤保健医療統括監、大木副院長の7名の先生方にご出席いただきました。



医師部会

門脇部会長のあいさつの後、今年度の協議会事業の進捗状況について説明があり、続いて医師部会の活動方針を確認いただきました。まず、医師部会は、各専門部会での医療に係る疑義を調整する役割と、在宅医療・介護における医療機関とおしの連携機能を検討していくことの確認がなされました。

次に各専門部会長から部会の活動の報告と医療に関する疑義について、ご意見をいただきました。

意見では、多職種の専門職が顔の見える関係で、何でも相談できる関係を構築することが大事であること。更に、専門職とおしの連携機能である「つながる安心ノート」を利活用するために、主幹管理者としてケアマネが基本事項を整理して記入し、関係する専門職が簡易に利用できる工夫を検討すること等を協議いただき部会は終了しました。

編集後記 寒河江看護介護部会長からの寄稿

第3号の発行に寄せて… 昨日、医師部会に参加させていただきました。ご出席の先生方は、高畠町の在宅医療について課題やこれからの在り方について、熱くディスカッションをされており、その様子に感銘を受けました。在宅医療・介護の主役は患者様、ご家族であり、その支えになるのは、主治医の先生方を始めとした医療と介護のサポート体制だと思います。医師部会を中心に、多職種全体がより一層つながれるよう頑張りましょう！